

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題を一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

## 「先生、どうにかできませんか。」

千葉県野田市で起こった痛ましい児童虐待事件がメディアで大きく取り上げられています。小学4年生(10)がいじめアンケートに書き記した「先生、どうにかできませんか」の1行の叫びを受け止められなかった周囲の大人たちは、道端に人が倒れていても見なかったことにして救急車も呼ばずにその場をやり過ごす人間だったこととなります。

モンスタークレマーへの対応に恐怖するあまり、こどもの生命の危険を盾に身を守ったのです。「ひみつを まもりますので しょうじきに こたえてください」と書かせたアンケート用紙のコピーを虐待している親に渡すことで安堵していたのなら、闘うべき仕事につく大人がこどもを置いて逃げ出したことになるでしょう。亡くなった児童がそのコピーを親から見せられた瞬間の気持ちを思うとやりきれないのです。

法治国家では人は法によって守られます。多くの争いごとは法を持ち出さずとも、人の正義感と知恵でカタがついています。その調整中に予期せぬ犠牲者が出るような社会ならば法を拡大整備して強制力を高めるしかないのでしょうか。今回の悲しい出来事がそうした社会の到来を予感させます。

事件に関わった教育関係者は、「職責を全うした」と生命を失った児童に申し開きができるでしょうか。ひとりのクレマーから逃避したいあまり、肝心なところで組織をつかった対応が出来ず、担当者以外は報告だけを聞いて当事者になりたがらなかった姿勢は、あまりに無責任で大人らしくない。「先生、どうにかできませんか。」の問いに対する打つ手を提示する教職員が現れないのはどうしてなのでしょう。(つづく)



当社では毎年、たくさんの高卒生を迎え入れております。一人でも多くの若い力を大切に育て上げたい。社会の発展に貢献できる人材に成長させることを私がお約束します。会社を通して彼らの人生形成の役に立ちたいと存じます。

ぜひ大切な生徒様の進路検討に私の会社を加えて下さい。本日は、御精読ありがとうございました。

松本 隆一郎